

桜島学校の教育（基本的な考え方）

暫定版（2025.6.26）

教育理念

（桜島学校において育成したい理想とする児童生徒の姿）

桜島のように豊かでたくましい人づくり

学びのコンセプト

（桜島学校における児童生徒の学びの基本となる考え方）

「桜島をまるごと学び舎に」して学ぶ

桜島学校における、学びのコンセプト（「桜島をまるごと学び舎に」して学ぶ）とは

◎ 桜島をまるごと学び舎に（桜島学校を学びのプラットフォーム）として学ぶ…①

桜島全体を学びのフィールドとして、桜島学校を学びのプラットフォームとして捉え、活火山の麓にあるトップシティの学校として、学校での学びを国内外に発信したり、国外の方々と交流したりするために、外国語や様々なコミュニケーションスキルを身に付けたり、ICTの活用能力を発揮したりできるように努めます。

また、「こどもまんなか社会」の実現を目指して、コミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）を基盤とした義務教育学校として、学校・家庭・地域がそれぞれ当事者意識をもち、共に手を携えて教育にあたるシステムを構築しながら、地域の活性化が図られるよう、桜島学校を核としたスクール・コミュニティ（学校を核とした地域づくり）の実現を目指していきます。

◎ 桜島の「ひと、もの、こと」から学ぶ…②

桜島で共に過ごす「ひと」と共に学び、鹿児島県内外、日本国内外の様々な「ひと」から学びます。桜島（火山）や海（錦江湾）、農産物や水産物等、身近にある本物、桜島の「もの」から学びます。桜島を取り巻く厳しい自然や先人が歩んできた歴史、桜島に根付いてきた伝統や文化など、様々な「こと」から学びます。

また、桜島に留まらず、県内外の各種学校や教育機関、企業・団体等、様々な外部のリソースを活用し社会に開かれた教育課程の実現を目指していきます。

桜島学校における、学びのコンセプト（「桜島をまるごと学び舎に」して学ぶ）とは

◎ たゆまぬ挑戦（失敗）から学ぶ…③

雄大で荘厳な桜島で学ぶ中、たゆまぬ挑戦から生じる失敗を恐れず、失敗を受け入れ、失敗を繰り返しながら、挑戦する勇気や態度、挑戦することをあきらめない粘り強さを身に付けます。失敗から学びながら身に付けた知識や技能を生かして、自ら課題を設定し課題解決に取り組みます。

また、他者の挑戦や失敗を見守ったり、寄り添ったり、他者の挑戦や失敗から学んだりしながら、互いに高め合う中で、個人や集団で、達成感や成就感を味わうとともに、自己肯定感を高めます。

◎ 命の尊さを学ぶ…④

桜島の厳しい環境の中、共生している人々が、それぞれの見方・考え方を尊重し、個々の価値観や生き方の尊厳に触れる中で、思いやりや互いを尊重する心、自他の生命を大切にする態度などの人権感覚を身に付けます。

また、桜島特有の自然環境から学ぶとともに、自然の恵みに畏敬の念を持ちながら、桜島で生活していることを自負し、様々な自然災害や危機事象から自己や他者の命を守る態度や能力を養います。

桜島学校における学びのコンセプト（「桜島をまるごと学び舎に」して学ぶ）とは

◎ 桜島学校での「学び」を生かして学ぶ（学び続ける）…⑤

鹿児島市初の義務教育学校である桜島学校で、9年間を一貫させた学びの「連続性」「多様性」を生かした特色ある教育カリキュラムの基、様々な「学び」により身に付けた資質・能力を基に、創造力を発揮し、9年間という長いスパンの中、児童生徒それぞれの学びをデザインします。

桜島学校での学びを基に、生涯に渡って、自分自身の人生を楽しみながら、自分を大事にするとともに、人の役に立ち、私たちを取り巻く世界を良くするために、現状や課題を様々な観点から検証・分析し、よりよい方法や手段を模索しながら、学校（児童生徒・職員）、家庭・地域、社会のウェルビーイングの向上を目指します。

学校教育目標

ワクワク、イキイキ、ノビノビ学んで、みんなのニコニコがいっぱいの学校

※ 目標は、児童生徒が親しみやすいことばで表現、教育を押し付けることではなく、桜島のように豊かで逞しい人間性と心身を育成するために、桜島をまるごと学び舎に、学びのプラットフォームとしての学校（CS）づくりを目指すこととしたい。

児童生徒に習得・活用・発揮させたい
資質・能力（態度、非認知能力）

課題設定力
課題発見力
行動力、分析力
探究力、忍耐力
意欲、勇気、気力

挑む力

心豊かで逞しい体

人間性、道徳心
受容性、人権感覚
協調性、共生・共存
コミュニケーション能力
同僚性・協働性

信じる力

自己肯定感、自己存在感
自己効力感、自己調整力
自尊感情
自立・自律
心理的安全性の担保

想像力、創造性、
対応力、適応能力
洞察力、観察力
情報活用力

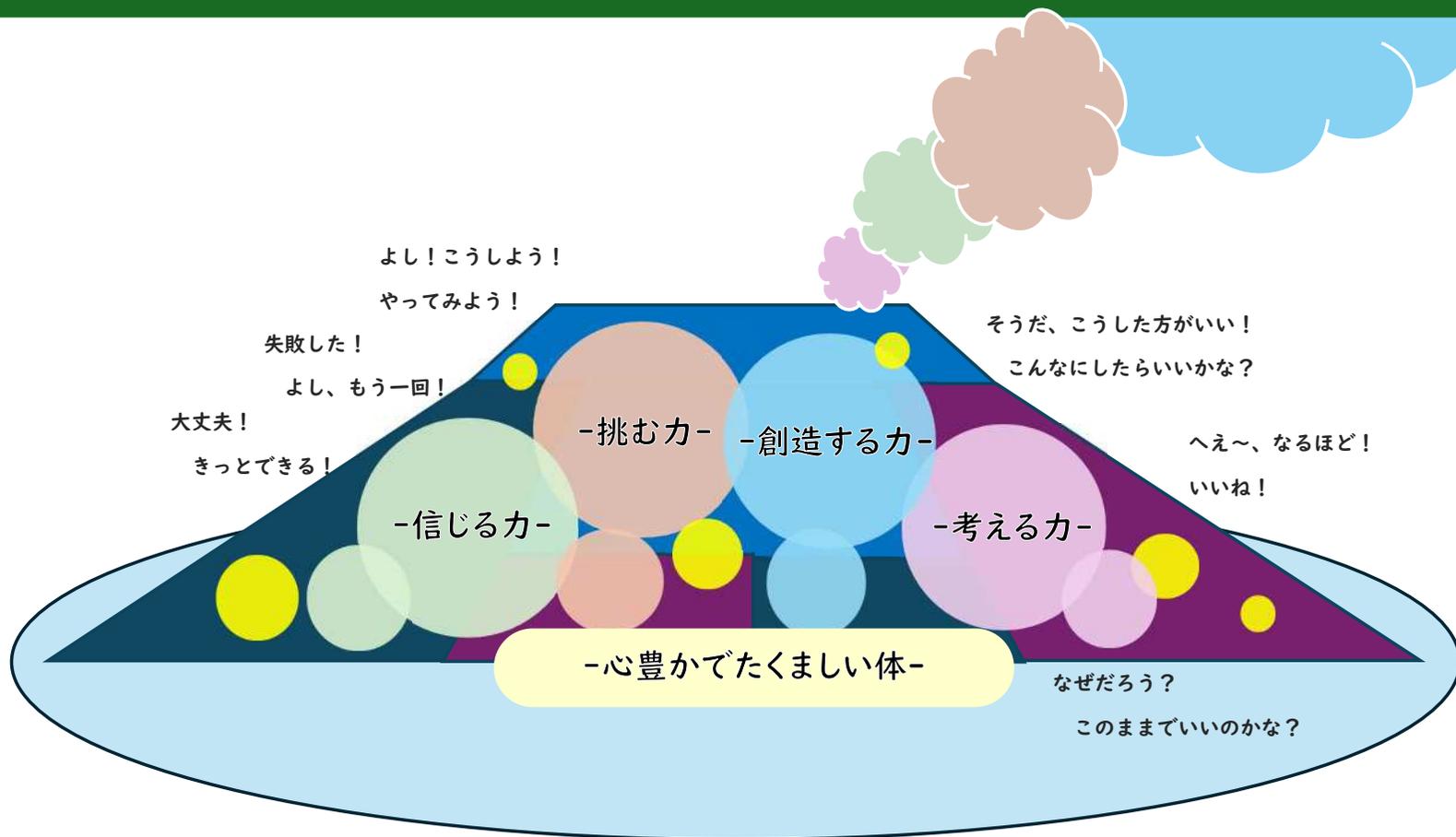
創造する力

考える力

自己決定力、判断力、
主体性、実践力
自律、自己表現
批判的思考
(クリティカル・シンキング)

学校教育目標

ワクワク、イキイキ、ノビノビ学んで、みんなのニコニコがいっぱいの学校



資質・能力、態度、非認知能力 「心豊かでたくましい体」

人間性、道徳心、受容性、人権感覚、協調性、共生・共存、コミュニケーション能力、同僚性、協働性 等

「心豊かでたくましい体」とは、児童生徒が様々な学びを通して、資質・能力を身に付けたり、発揮したりするための全ての基盤となるものであり、相手を尊重し、他者の意見や考え方を傾聴する姿勢や進んで関わろうとする態度にも繋がるもので、ウェルビーイングを実現する上でも重要な素養

◆なぜ、「心豊かでたくましい体」か？

「心の豊かさ」や「たくましい体」は、いつの時代においても児童生徒が備えるべき、不易な資質・能力であると考えますが、自他の学び・成長につなげていくためにも、児童生徒一人一人が、同僚性や協働性を発揮して、全体的に受容的な雰囲気の中で、他者の意見や考えを傾聴したり、自身の意見を安心して主張できたりするような、心理的安全性が担保されることが重要だと考えるところ。今後、DX化やグローバル化が益々進み、人々の考え方や行動の仕方が更に多様化する社会においては、世代や国籍等を超えて異なる個性を持つ人々が、共に生活しながら相互に学び合う中で、相手の多様な見方・考え方を受け入れたり、大切にしたりできる「心の豊かさ」は必然的に必要とされる素養となる。また、「たくましい体」とは、単に病気や怪我もなく身体が健康な状態であるという意味だけではなく、障害があったり、病気であったりしても、懸命に学ぶ姿や強い意志をもって他者と関わろうとする様相のことである。桜島学校におけるウェルビーイングを実現していくためにも、「心の豊かさ」と「たくましい体」とともに特色ある教育活動を支える基盤となると考えた。

資質・能力、態度、非認知能力 「信じる力」

自己肯定感、自己存在感、自己効力感、自尊感情、自立・自律、心理的安全性の担保 等

「信じる力」とは、周囲の評価に左右されることなく、自分の良い部分と悪い部分を含めて、「ありのままの自分」を受け入れると共に、他者の存在や多様性、多様な価値観を受け入れ、共生しながら育む「自己肯定感」や「自己存在感」、「自立・自律」などにつながる力

◆なぜ、「信じる力」か？

国際比較した意識調査や全国学力・学習状況調査の結果などにより、国・県・市において、自己肯定感の低さが課題となっています。桜島地域においても、子供の自己肯定感の低さや自信の欠如を課題と捉えている学校が見られます。

自己肯定感の定義も様々ありますが、生徒指導提要（令和4年12月、文部科学省）においては、生徒指導の実践上の視点として、「自己存在感の感受」が示され、「学校生活のあらゆる場面で、『自分も一人の人間として大切にされている』という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切」と述べられています。変化の激しい時代だからこそ、結果や他者との比較、他者からの評価といった外発的なものではなく、自分の内側で「ありのままの自分でいいんだ」と自分を信じるのが特に大切だと考えます。

また、「自己存在感を感受」するためには、集団の中での「心理的安全性の担保」が重要であり、そこには、他者に対する信頼感、他者を信じることも重要になると考えます。

資質・能力、態度、非認知能力 「考える力」

自己決定力、判断力、主体性、実践力、自律、自己表現、批判的思考力（クリティカル・シンキング） 等

「考える力」とは、自分の道を切り拓くため、自分自身で試行錯誤しながら、選択・判断・実行していくことができる力であり、自分の責任で考え「決める力」でもあります。自分が保有している知識を世の中にある情報や事象と関連付けながら、深く考察する「考え抜く力」にもつながる力

◆なぜ、「考える力」か？

教育現場において、児童生徒が様々な問題や課題に対して、「考え」、「答え」を導き出すことは、当たり前のことではありますが、疑問を抱きながら、真実を見極めたり、答えを導き出すためには、様々な問題や課題と真摯に向き合いながら、自分の意志で意図をもって「考える」こと、熟考することが重要であると思います。「令和の日本型学校教育」では、自分で計画を立てて、自分なりの方法で学習を進めていく力が求められています。また生徒指導提要では、「自己決定の場の提供」が示されています。桜島地域の先生方を対象にしたWSでも、めざす子供像として「自分で考え、判断する」「自己決定・判断・選択」「自律」といった、自分で考えた上で、「自分で決める力」と関連性のあるワードが多数あげられ、現場の先生方も重要だと認識していることが感じられました。「自分で考え、自分で決められるから楽しそう（な学校）」これは、桜島の小学生がつぶやいた言葉です。そもそも自分で考え、決めること自体に楽しさを感じている。「子供の『したい』の先に楽しさがある」「（大人の『すべき』より、）子供の『したい』を大事にしながら、児童生徒に「考える力」を身に付けさせたいと考えます。

資質・能力、態度、非認知能力 「挑む力」

課題設定力、課題発見力、行動力、分析力、探求力、忍耐力、意欲、勇気、気力 等

「挑む力」とは、学び続ける原動力となる、自分なりの課題を発見したり、（自分が挑戦してみたい）課題を適切に設定したりすることができる力。また、挑戦から得られた失敗に学ぶことで、よりよい学びや深い学びにつながったり、新たな課題に挑もうとする態度につながったりする力

◆なぜ、「挑む力」か？

学校現場だけでなく、社会の中でも、失敗をすることが学びにつながる、「失敗は成功の基」と一般的には言われることですが、実際は失敗させない教育や取り組みが中心となり、失敗を避ける、恐れる子供、大人が増えていると感じています。失敗することが目的ではありませんが、たゆまない挑戦から生まれる失敗は、その人の成長に大きなきっかけになると考えます。また、新たな問題や課題等に対して、試行錯誤しながら挑戦し続けることから資質・能力が更に高まり、その人の生きる力にもつながっていきます。人工知能（AI）が台頭し、社会が大きく変化しつつあります。人工知能が人類を超え、生活が一変する「シンギュラリティ」に到達するのも近い将来の話かもしれません。AIは課題に対する答えは簡単に導き出しますが、課題そのものを適切に設定することは難しいようです。また、課題に対する回答を簡単に導き出せば良い訳ではなく、深い学びの実現のためには、勇気を持って挑戦し、試行錯誤の上で失敗することから学び成長することが、我々人間としての強みであり、先行き不透明な現代社会においても、様々な困難に立ち向かっていける力につながることになると考えます。

資質・能力、態度、非認知能力 「創造する力」

想像力、創造性、対応力、適応能力、洞察力、観察力、情報収集・分析力 等

「創造する力」とは、桜島学校での様々な学びを基に、これから起こりえる出来事をイメージしたり、想像・予測したりする力であり、新たな意味や価値を見い出したり、そのために必要な情報を収集・整理したり、分析したりする力のこと。また、他者の気持ちや思いを汲み取る力

◆なぜ、「創造する力」か？

学習指導要領において、「創造性」の涵養を目指した教育の充実に努めることが明示され、「0から1を生み出す」、「アイデアやクリエイティビティがある」人物が社会からもとめられつつあります。創造は、想像とも密接に関わっていると捉えたとき、想像することは、理解を助けることや、また人の気持ちを想像すること、思いやりをもつことにも影響すると考えます。

桜島は豊かな自然の恵みを与えてくれる一方で、噴火に伴う大規模な自然災害も否定できない環境にあります。大規模噴火では何かしら前兆もあるといわれています。これまでに身に付けた力も発揮しながら、主体的に考え・判断し、行動して、助け合い、自他の命を守るためにも、先を予測する、想像することは大切なことです。桜島学校での学びは、桜島の「ひと、もの、こと」から学び、様々な体験や事象などの本物から学んでいきます。桜島学校での様々な体験や身に付けたスキルを生かして、バーチャルでなく、リアルな感覚で、創造力を発揮できる資質・能力を身に付けることが重要であると考えます。